

花いっぱいの釜小

副校長 荒井 宏明



若葉・青葉がまぶしい季節が足早に過ぎ、雨空の多い梅雨が近づいてきました。どんよりとした空模様の下では、どうしても憂鬱な気分になりがちです。しかし、ひとたび釜小の門をくぐると、不思議と明るい気持ちになるのです。その理由の一つが、釜小のあちらこちらの花壇に咲く、色鮮やかな花が自然と目に入ってくるからだ、最近になって気付くようになりました。

4月に咲いていたチューリップやサイネリアが枯れてしまっても、今はマリーゴールドやノースポールなど、様々な種類の花が美しく咲いています。それらは、釜小学校支援隊の花ボランティアの方々が中心となって、季節ごとに花の苗を植え、手入れをしてくださっているのです。5月は天気が不安定でしたので、夏日のような暑い日や小雨が降る日にも作業をなさっていました。本当に頭が下がる思いです。「コロナ禍にあって、いろいろと子どもたちも我慢を強いられているので、せめて季節の花を見て、明るい気持ちになってもらえたら。」と、ボランティアの方はお話をされていました。

その話を聞いて、休み時間に花壇の隅の野草の花を集めている児童がいたのを思い出しました。「副校長先生、こっちの青い花も採っていい？」と聞いてきたので、「それも植えた花ではないからいいよ。」と答えると、笑顔で花を摘み、花束のようにして嬉しそうに立ち去っていきました。

フラワーセラピーなどと言われるように、花をめぐることで不安やストレスが和らぎ、気持ちが落ち着く効果があるという研究があります。現代は、誰しものが仕事・勉強・人間関係などからストレスを抱えていたり、暗い話題から漠然とした不安を覚えたりすることが少なくありません。それは、子どもたちも同じようなことが言えます。花がいっぱいの釜小の環境は、子どもたちのストレスや不安を和らげ、穏やかな明るい気持ちへと導く一助になっていることでしょう。花ボランティアの方に刺激されたように、職員も日々廊下に挿花を絶やさなかったり、気に入った造花を教室に飾ったりするなどの工夫をし、子どもたちの環境を整えています。

ここ数日で、アジサイの花も色づき始めましたが、アジサイの花に負けなくらいに、子どもたちの笑顔の花が満開になることを願って、職員一同努めて参りますので、今後ともご理解ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

